

第46回(2023年)合成樹脂工業協会賞 概要

令和5年10月26日

合成樹脂工業協会

ご挨拶

会長 森川 宏平

本日ここに第72回ネットワークポリマー講演討論会が開催されましたが、この機会に、恒例により第46回合成樹脂工業協会賞・授与式を合わせて挙行させていただきます。

皆さまご高承の通り、本賞はわが国における熱硬化性樹脂の先覚者であり、この講演会の創設者でもある井本 稔先生、大島 敬治先生、鶴田 四郎先生のお3方のご芳志により1978年に創設されました。

この間、44年間の長きにわたりネットワークポリマーの研究開発を推進し、本業界の発展に貢献された187名の方々を顕彰させていただきました。

今回も、選考委員長の遠藤 剛先生をはじめ5先生に選考委員をお願いし、本講演討論会及び協会が発行する学術誌「ネットワークポリマー」を通じて発表された皆様方の研究業績ならびに貢献度を評価の上、本年の受賞者を決定していただきました。

学術賞は、ネットワークポリマーに関する研究業績に加え、本協会や学術誌の編集と本講演討論会の運営に多大な功績を戴いた方を顕彰する賞であり、本年は、

- ・(地独)大阪産業技術研究所 門多 丈治 氏
- ・山形大学大学院理工学研究科化学・バイオ工学専攻 落合 文吾 氏

の2氏に決定いたしました。

学術奨励賞は、「ネットワークポリマー」及び本講演討論会に発表された優れた研究成果に対し顕彰するもので、本年は数多くの候補者の中から、

- ・滋賀医科大学 生命科学講座(化学) 森 康友紀 氏
「エポキシ樹脂を用いた硬化系の高性能化を指向した機能性分子に関する研究」
 - ・DIC株式会社 総合研究所 新事業統括本部 藤田 明 氏
「特殊形状多面体アルミナフィラーを用いた高熱伝導シートへの応用に関する開発」
- の2氏に決定し、優れたご研究とご研鑽に対して深く敬意を表し表彰させていただきます。

ネットワークポリマー功労賞は、長年「ネットワークポリマー」の学術活動を推進されました

- ・元住友ベークライト株式会社 藤本 尊三 氏

の1氏に対して深く敬意を表し表彰させていただきます。

これまでの学術活動への多大な貢献に対し、改めて謝意を表するとともに、引き続き後進のご指導、学術誌及び講演討論会へのご支援をお願い申し上げます。

さて、現在の世界経済はロシアによるウクライナ侵攻や米中間の緊張といった様々な地政学的リスクが継続していることに加えて、中国経済の減速が今後大きな影響を与える可能性があるなど、先の読めない不安感が充満しています。

我々は、このような状況に立ちすくむことなく、これまでも増して新規製品開発力を向上し、製造技術をレベルアップし、そして品質を高めていくことで国際競争力を強化する努力を絶え間なく続けていくことが重要です。

この「ネットワークポリマー講演討論会」は、国際競争力のベースとなる基礎研究・応用研究のアクティビティを示す場です。

今回は特別講演、受賞講演、一般講演あわせて38件の講演、26件のポスター発表と、多くの申し込みを

いただきました。日本の国際競争力のベースである研究開発のアクティビティーの高さを表すものであり、そのことに対して大変頼もしく感じています。

今年も昨年に引き続き、コロナ禍が完全終息していない状況での集まりであることを十分に配慮しつつ、出来る限り直接の懇親・懇談の場を設けています。

大学や研究機関、企業という様々な立場の多様な人材がネットワークポリマーの国際競争力強化という共通の目的を持って触発しあうことで、新たなアイデアの創出や連携のきっかけになることを期待しています。

合成樹脂工業協会は、これからも情報発信の場として、次世代を担う技術や人材の育成の場として、産官学の協調を促進しながら、様々な活動を進めてまいります。

昨日から3日間にわたって開催される「ネットワークポリマー講演討論会」がその一助となることを強く願っています。

最後に遠藤先生はじめ、選考にあられた委員諸先生のご尽力に対し、厚く御礼申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

受賞を祝して

合成樹脂工業協会賞・選考委員会
委員長 遠藤 剛

第72回ネットワークポリマー講演討論会にあたり、多大な貢献をされた諸氏を顕彰いたします。

今年度は

学術賞	門多 丈治 氏
	落合 文吾 氏
学術奨励賞	森 康友紀 氏
	藤田 明 氏
ネットワークポリマー功労賞	藤本 尊三 氏

の、五氏を選定いたしました。

学術賞の門多 丈治氏は、「酸塩基有機触媒による構造制御ポリ乳酸の精密合成と工業材料への展開」に長年従事し、リパーゼ触媒開環重合において、酵素活性部位を活用した新たな重合触媒を開発しました。この触媒は溶液重合とバルク重合の両方に適用可能で、理論的な分子量を正確に得ることができ、高重合度の実用的なポリ乳酸を製造できるようになります。さらに、異なる開始剤を使用することで、直鎖や分岐構造の調整、開始・停止両末端基の修飾、ブロック共重合など、多彩なポリマー設計が可能となります。

門多氏は、これらの成果をネットワークポリマー講演討論会やネットワークポリマー論文集に発表され、前述した内容の研究に大きく貢献されました。

この貢献に対し敬意を表し顕彰いたします。

学術賞の落合 文吾氏は「環境に負荷をかけない」・「余剰資源を有効利用する」をキーワードに二酸化炭素(CO₂)・二硫化炭素(CO₂)・植物由来の物質をはじめとする非石油系の天然資源から得られるモノマーの重合、環化重合(閉環重合)などを用いて、機能性材料合成の研究を進めています。二酸化炭素を再生可能な炭素源として利用する方法については、エポキシドとの反応による五員環カーボナート合成がその有望な方法であることに着目し、五員環カーボナートを含むポリマーおよびポリヒドロキシウレタンの開発を進めております。

落合氏は、これらの成果をネットワークポリマー講演討論会やネットワークポリマー論文集に発表され、前述した内容の研究に大きく貢献されました。

この貢献に対し敬意を表し顕彰いたします。また、本年の特別講演にて最新の研究成果についてご紹介いただきます。

学術奨励賞の森 康友紀氏は「エポキシ樹脂を用いた硬化系の高性能化を指向した機能性分子に関する研究」をテーマとし、微量のイミダゾールでエポキシ樹脂の硬化反応を触媒的に進行させ、良好な粘着性、耐化学性、および耐熱性を持つ製品の開発により、優れた熱特性をもたらす硬化物を得る優れた成果をたてられました。

学術奨励賞の藤田 明氏は「特殊形状多面体アルミナフィラーを用いた高熱伝導シートへの応用に関する

開発」をテーマとし、電子デバイスの小型化、高集積化、高性能化の進展に伴う熱発生増加の課題に対し、特殊な形状を持つアルミナ粒子を開発し、高熱伝導シートに適用することで、熱伝導率の向上と絶縁特性の達成に成功しました。これにより、金属ベース基板のコスト削減やEV 周辺電子部材の性能向上に寄与する事が期待できる優れた成果をたてられました。

二氏の優れた研究成果に対し表彰致します。

ネットワークポリマー功労賞の藤本 尊三氏は、2010年から2023年までの13年との長きに渡って、ネットワークポリマー誌の事務局として、学術誌の編集ならびに講演討論会の開催事務局として貢献されました。2011年には科学技術振興機構が進める国内の学協会誌を、国内外に向けて発信する電子ジャーナル化電子アーカイブ事業に参画し、ネットワークポリマー誌及びネットワークポリマー講演討論会要旨集を創刊から2008年発刊まで無料で電子ジャーナル化を進めた功績は大なるものであり、ネットワークポリマー功労賞を受賞される十分な資格があるものと認められます。

今回の受賞者に心から拍手を送り、ネットワークポリマーの研究者、指導者として益々ご活躍されることを期待します。

選考・授与式

受賞者の選考

ネットワークポリマー編集委員会の五先生に合成樹脂工業協会賞の選考を委嘱し、8月3日に選考委員会を開催し、過去の本会における講演討論会および学術誌「ネットワークポリマー」に対する指導、支援、投稿・寄稿などの業績を対象として選考の結果、次の五氏に授与することを決定した。

学術賞	門多 丈治 氏
	落合 文吾 氏
学術奨励賞	森 康友紀 氏
	藤田 明 氏
ネットワークポリマー功労賞	藤本 尊三 氏

第72回ネットワークポリマー講演討論会において次のように挙行し、合成樹脂工業協会会長から賞状を授与し、記念品を贈ることとなった。

日時	令和5年10月26日 11時25分
式場	東京工業大学 すすかけ台キャンパス すすかけ台大学会館（すすかけホール）